新冠中とピーマン楽団が そろって全道大会に出場

8月3日、苫小牧市で開催された日胆地区吹奏楽コンクールで、新冠中学校吹奏楽部とにいかっぷピーマン楽団が金賞を受賞し、8月29日から行われる全道コンクールへの出場権を獲得しました。

全道出場は新冠中学校吹奏楽部が2年ぶり5回目、にいかっぷピーマン楽団は2年連続2回目です。

全道出場を前に、新冠中学校吹奏楽部の部員23人が山本町長を訪問しました。部長の木村仁美さんは「全道でも金賞を取り、東日本大会に進みたい」と意気込みを語りました。

にいかっぷピーマン楽団も全道に向けて練習を重ねており、町民に演奏を披露する場となる芸能発表会で「昨年より良い結果を報告できるよう頑張りたい」と、的場彪流さんは意気込みを述べました。

道の駅でAIアバターが 観光情報を案内

8月19日から、道の駅に用した観光案内システムが導入されました。

新冠町観光協会が設置したこのシステムは、来場者がAIアバターに話しかけると、音声と画面で観光情報を案内してくれるものです。質問内容によってはQRコードが表示され、「デジタル観光マップ」などをスマートフォンで簡単に確認することもできます。

現在は日本語と英語の2言語に対応しており、今後さらに対応言語を増やしていく予定です。

少年野球新冠大会 新冠が6年ぶり優勝

8月3日、町民グランドで第47回少年野球新冠大会が開催され、新冠野球スポーツ少年団が優勝しました。

この大会は、昭和54年に第1回大会を開催し、今年で47回目となる新冠町の伝統ある大会です。

新冠野球スポーツ少年団は、粘り強い試合運びを見せ、決勝戦では一時リードを許しながらも逆転し、6年ぶりの栄冠を勝ち取りました。

B&G北海道ブロック・スポーツ交流交歓会 町海洋クラブ会員の優勝は18年ぶり

8月3日、砂川市で『令和7年度B&G北海道ブロック・スポーツ交流交歓会「水上の部」』が開催されました。

この大会には道内の加盟団体から選手が参加し、24名が出場したカヌー競技において新冠小6年の小守悠馬さんが見事優勝を果たしました。

この部門で新冠町の児童が優勝するのは18年ぶりで、関係者にとっても喜びの結果となりました。

日高信用金庫が 図書プラザに児童図書を寄贈

8月6日、日高信用金庫（新保雄司理事長）より児童向けの図書を寄贈していただきました。図書の寄贈は4年前から継続して行われ、今年で5年目となります。

扇谷芳憲静内支店長は「これまでに累計170冊の図書を寄贈することができました。子どもたちが読書を通じて豊かに成長してほしいと願っています」と話されました。

『にいかっぷ』の夏の夜 『ふるさと盆踊り』で盛り上がる

8月9日、新冠町青年団体連絡会議主催の「にいかっぷふるさと盆踊り」が役場駐車場で行われました。

午後2時から催しが始まり、浴衣姿の子どもたちをはじめ、多くの来場者が夏のひとときを楽しみました。

夕方から始まった盆踊りでは、子ども盆踊り、新冠音頭、北海盆踊りが行われ、会場は世代を超えた参加者で賑わいました。

東京大学が5日間の フィールドワーク

8月25日から29日の5日間、東京大学の学生5名が新冠町を拠点として、軽種馬産業のフィールドワークを実施しました。

学生は生産・育成・養老牧場の現場を訪れ、馬の一生や現場で働く人々の想いについて学んだほか、学生主催の新冠町民らとのワークショップを開催して地域交流を図りました。

地域の現場と新冠町の抱える課題について理解を深めた学生は、活動最終日に役場会議室で行われた報告会で、各々の専攻分野とフィールドワークで得た知識を踏まえ、課題解決に向けた8つの提案を行ないました。

『おうちごはん屋えましあ』が 夏のビアガーデンを企画

「おうちごはん屋えましあ」が企画したビアガーデンが、8月15日と16日の2日間、にいかっぷキッチンで開催されました。これは町民から「盆踊りが終わると外でビールを飲む機会がない」との声を受け、えましあが応える形で企画されたものです。

初めての試みで周知は控えめでしたが、会場には多くの方が訪れ、夏の夜を楽しんでいました。

砂で描くアートに挑戦 児童館特別事業を開催

8月20日、児童館特別事業「サンドアート」が町民センターで開催され、44名が参加しました。

講師に北海道出身のサンドアーティストMASA氏を迎え、音楽に合わせて次々と絵を描き出すパフォーマンスが披露されました。

参加者はその後、講師の助言を受けながら実際にサンドアートに挑戦し、砂を使った表現の楽しさに触れていました。

まちの話題 あれこれ